

第2章

子どもを取り巻く現状



第2章 子どもを取り巻く現状

1 少子化の状況

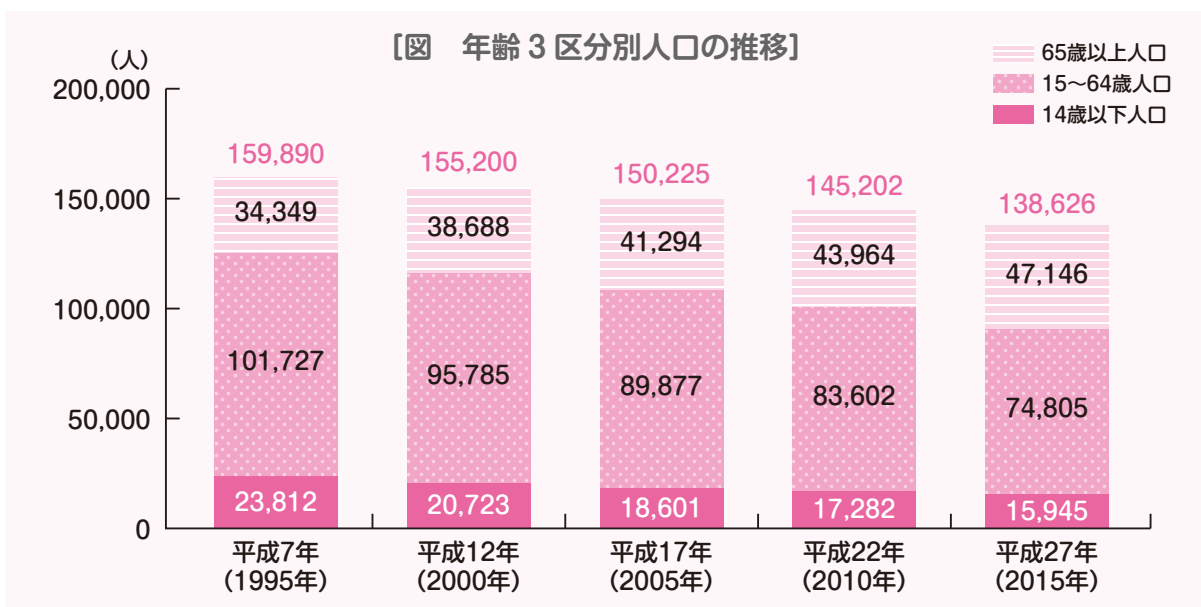
(1) 年少人口の推移

- 本市の国勢調査による総人口は、減少傾向にあり、平成27（2015）年の総人口は5年前の平成22（2010）年と比較すると4.5%減となっています。
- 平成27（2015）年の14歳以下の年少人口は、15,945人であり、平成22（2010）年と比較すると7.7%減であり、少子化が進行しています。
- 年少人口割合は、低下傾向にあり、全国・広島県よりも低い値で推移しています。
- 15～64歳人口割合も低下傾向にあります。

[表 年齢3区分別人口・構成比の推移]

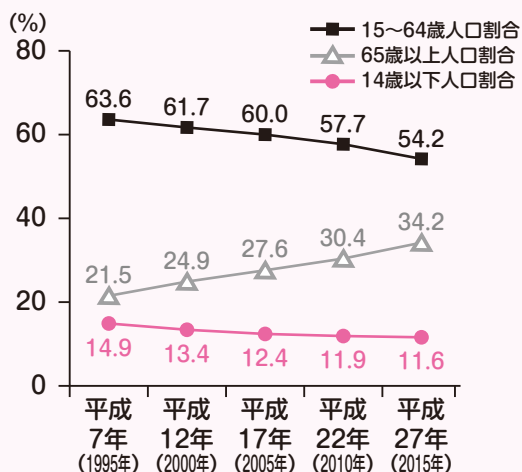
区 分	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
総人口	159,890	155,200	150,225	145,202	138,626
14歳以下人口	23,812 14.9%	20,723 13.4%	18,601 12.4%	17,282 11.9%	15,945 11.5%
15～64歳人口	101,727 63.6%	95,785 61.7%	89,877 59.8%	83,602 57.6%	74,805 54.0%
65歳以上人口	34,349 21.5%	38,688 24.9%	41,294 27.5%	43,964 30.3%	47,146 34.0%

注) 総人口には年齢不詳人口を含む。下段は総人口に対する割合
資料：国勢調査

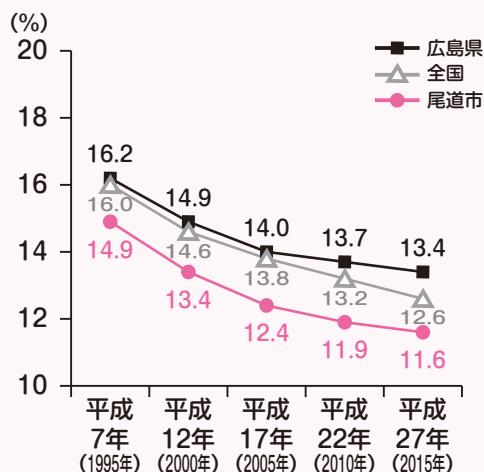


資料：国勢調査

[図 年齢3区別人口割合(尾道市)]



[図 14歳以下人口割合]



資料：国勢調査

(2) 出生の動向

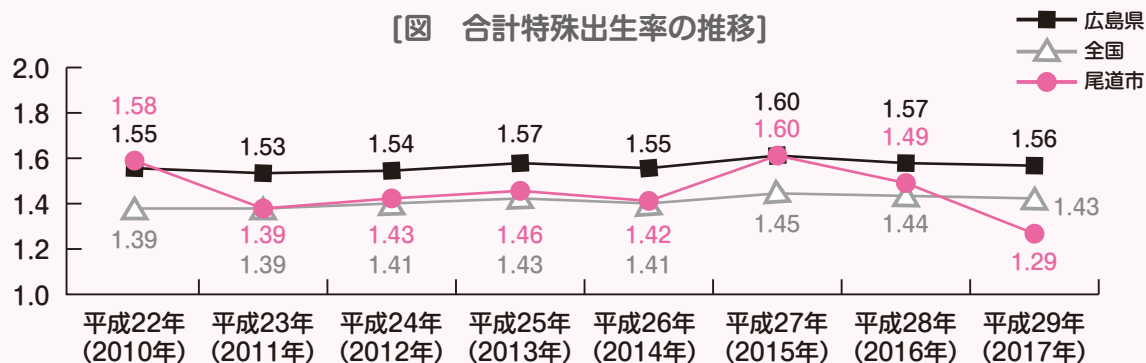
- 本市の出生数は、平成26（2014）年から平成28（2016）年までは900人台前半となっており、横ばいで推移していましたが、平成29（2017）年は、770人と大きく減少しています。
- 出生率（人口1,000対）は、平成23（2011）年から平成28（2016）年まで横ばいで推移していましたが、平成29（2017）年は低下しています。
- 合計特殊出生率は、平成24（2012）年以降、平成27（2015）年を除き1.4台で推移していましたが、平成29（2017）年は1.29となっており、前年を大きく下回っています。

[表 出生数・出生率の推移]

区分	平成22年 (2010年)	平成23年 (2011年)	平成24年 (2012年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)
出生数 (件)	1,056	993	998	975	921	923	928	770
出生率 (対千人)	7.4	6.7	6.8	6.8	6.4	6.8	6.6	5.6

資料：広島県人口動態統計年報
注）出生率=人口1,000対

[図 合計特殊出生率の推移]



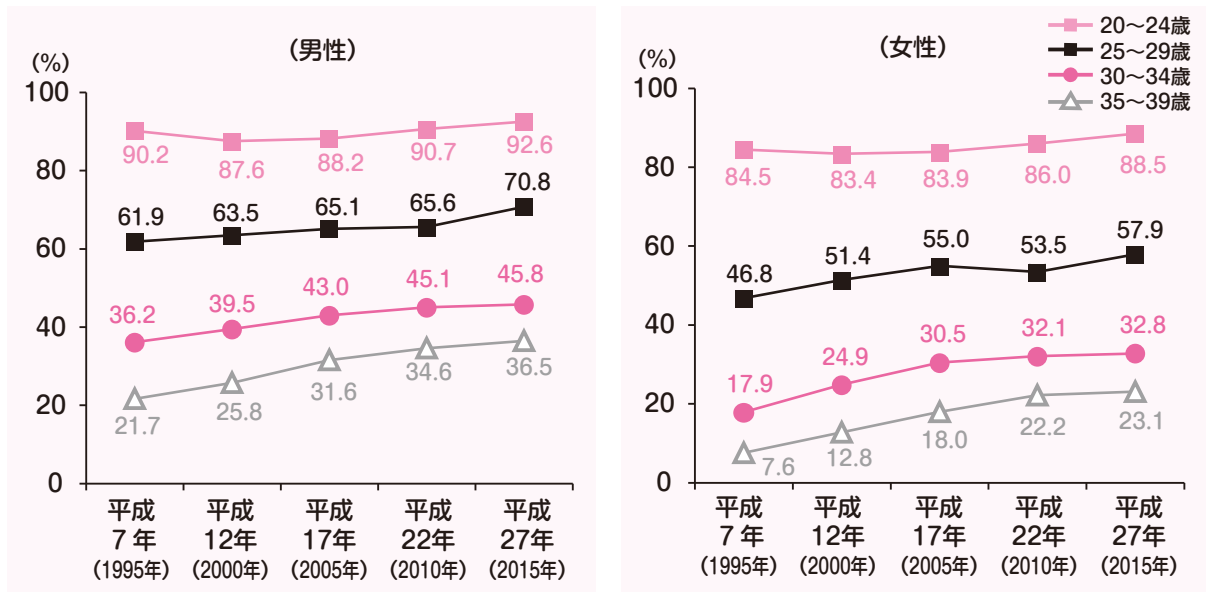
資料：広島県人口動態統計年報

※平成22年、平成27年は「国勢調査人口・実数、性（女）・年齢（5歳階級）保健医療圏・保健所・市町別」を使用して算出しています。

(3) 未婚率の推移

- 本市の未婚率は、20歳から39歳まで、男女ともにいずれの年齢層も上昇傾向にあります。
- 平成27（2015）年の35～39歳の男性の未婚率は、平成7（1995）年と比較すると、14.8ポイント上昇しています。
- 平成27（2015）年の35～39歳の女性の未婚率は、平成7（1995）年と比較すると、15.5ポイント上昇しています。

【図 男女別未婚率の推移】

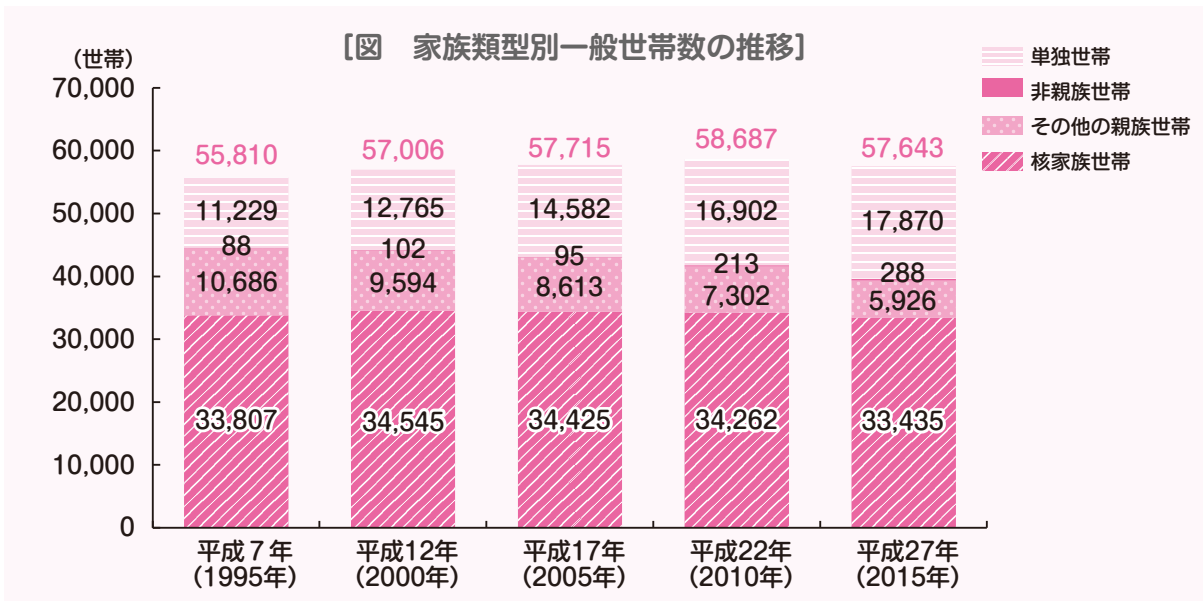


(各年10月1日現在)
資料：国勢調査

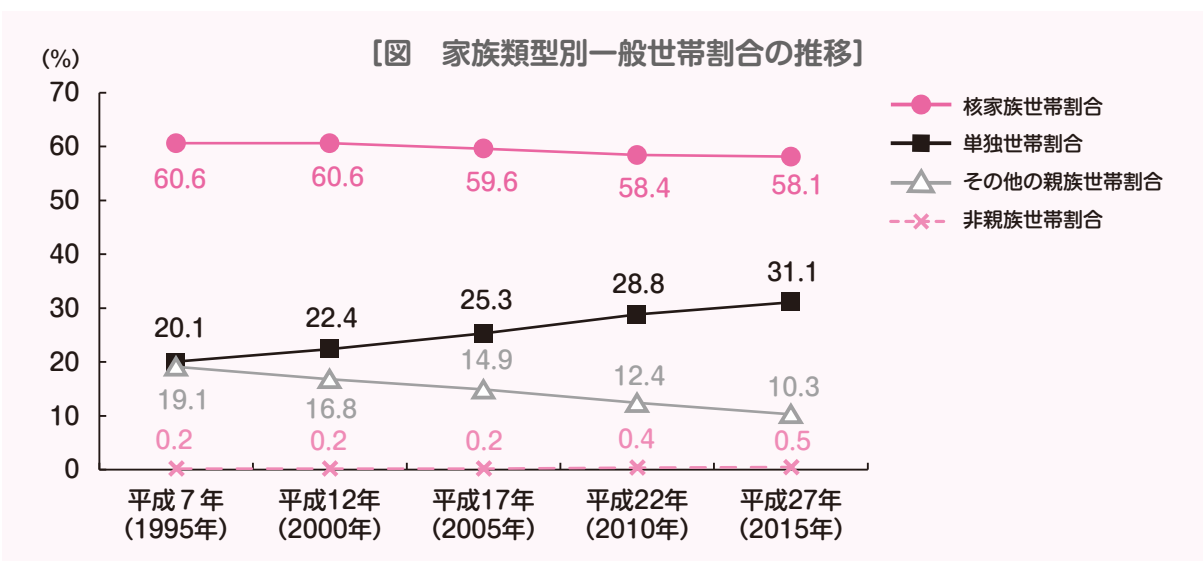


(1) 家族類型別一般世帯数の推移

- 本市の平成27（2015）年の一般世帯数は、平成22（2010）年と比較すると減少していますが、家族類型別では、単独世帯数が大きく増加しています。
- 3世代世帯等のその他の親族世帯は、減少傾向にあります。
- 平成27（2015）年の一般世帯数全体に占めるその他の親族世帯の割合は10.3%であり、平成7（1995）年と比較すると8.8ポイント低下しています。



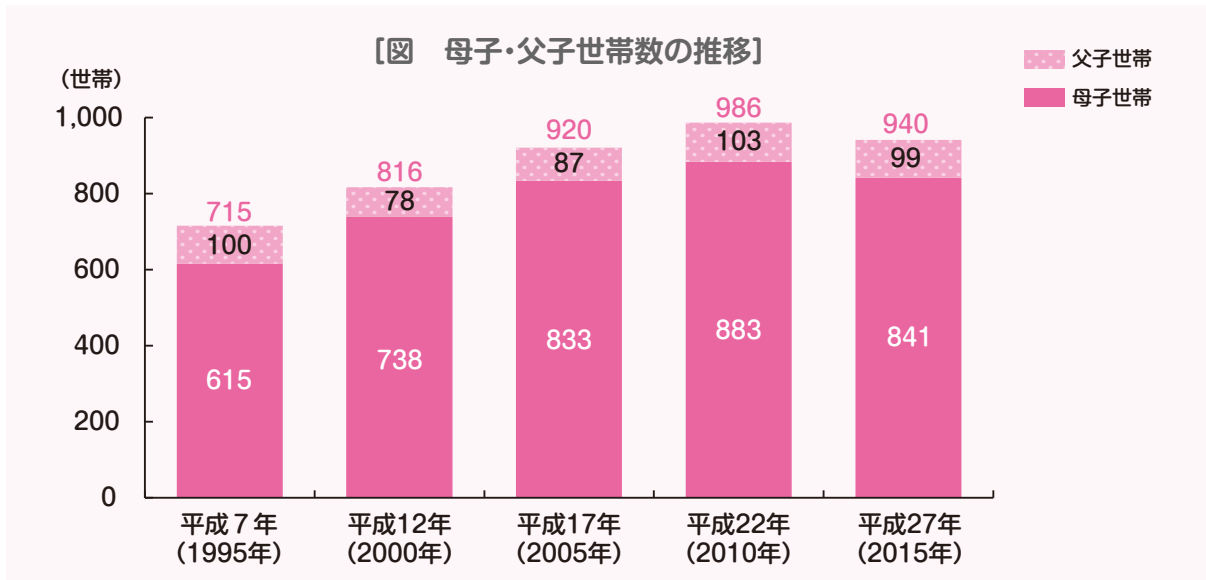
*世帯総数は、家庭類型不詳世帯を含む。
資料：国勢調査



資料：国勢調査

(2) ひとり親世帯の状況

- 本市の平成27（2015）年のひとり親世帯数は940世帯であり、平成22（2010）年と比較すると減少していますが、総世帯数に占める割合は横ばいで推移しています。



【表】 母子・父子世帯割合

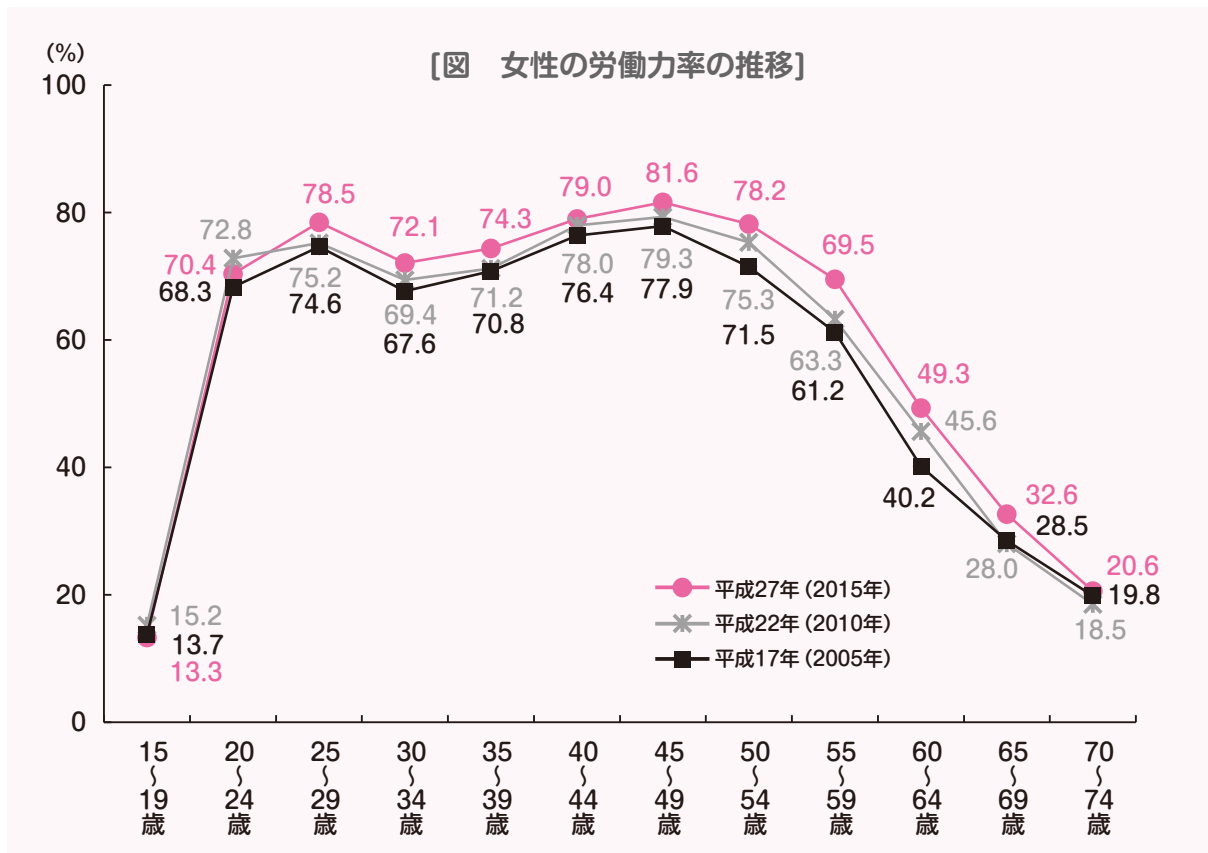
区分	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
母子・父子世帯割合	1.28	1.43	1.59	1.68	1.63

資料：国勢調査



(1) 女性の労働力率

- 本市の平成27（2015）年の女性の年齢別労働力率は、30～34歳、35～39歳で落ち込む緩やかなM字曲線を示しており、結婚や出産を機に退職する女性と、子育てが一段落して就労する女性の様子を反映していると考えられます。
- 平成27（2015）年の30～34歳の労働力率は、72.1%となっており、平成17（2005）年、平成22（2010）年と比較すると高く、その落ち込みは緩やかになっています。これは、以前よりも子育て世代の女性が就労するケースが多くなっていると考えられます。



資料：国勢調査